

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年3月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105230
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ新屋敷
所在地	鹿児島県鹿児島市新屋敷町4番1号 (電話) 099-222-0321
自己評価作成日	平成25年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に開かれ根付くことができる様に運営推進会議等で情報交換を行い、地域との関係を深め、お互いの行事等での交流を図っている。
街の中ではあるが、静かであり、近くに公園も多く、甲突川河川敷の散歩コースがあり、季節を感じることができる環境にある。また、スーパー、コンビニ等も近く、利用者の希望や能力に応じて個別に買い物に出かけ、地域と入居者との馴染みの関係ができる様にしている。
定期的に勉強会を行い、基礎知識を学び、具体例などをあげ実践できる様ケアの質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ホームの玄関やホールには、利用者と小学生で作ったおひな様などの季節感あふれる作品が、展示されている。町内会行事へ参加したり、ホーム行事への地域住民の協力など、地域との良好な関係ができています。
- ・ホームに看護職員を配置し、協力医療機関と24時間医療連携体制が整っており、利用者の健康管理や体調把握がされている。
- ・年2回、昼・夜間を想定して消防署の指導のもと、地域住民の協力を得ながら避難訓練を行っている。また、町内防災訓練に参加し、地域住民との協力体制が築かれている。
- ・食事のアンケートを実施し、利用者の嗜好や食事形態を取り入れた献立が作られている。おせち料理や花見会場での豚汁・おやつケーキなど、手作りにこだわり、食事が楽しいものになるよう全職員で取り組んでいる。
- ・管理者は、職員の研修受講や資格取得などを奨励し、職員のケアのレベルアップに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に理念を唱和し、一人一人の意識付けを行っている。また業務中も理念に基づいたケアを心掛けている。	ホーム独自の理念を作り、玄関やホールに掲示している。朝礼時に、交代で理念を声を出して読み上げ、日常的に理念を再認識して、日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の重度のレベルの差があるが、外出可能な方は地域の行事に参加できるようになってきた。またホームのイベントに地域の方をお誘いしたり、慰問を受け入れたりしている。	自治会に加入し、地域行事の運動会や六月灯に見物に出かけたり、あいご会の子どもたちと一緒に飾りものを作ったり、ホーム行事などに地域住民の参加がある。中学生の職場体験の受入れや散歩や買い物時に挨拶を交わしたりして、地域住民との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議の際に意見交換の場を設け、説明、アドバイスを行っている。また行事を通して地域の子供達との交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催し、現状報告・活動報告を行うとともに、活動計画を共に話し合い行事を盛り上げたり、テーマにそって意見交換し合いサービスに生かしている。	運営推進会議は定期的に行い、ホームの状況報告や行事計画などの意見交換を行っている。地域包括支援センター職員や近隣住民・消防署等の参加を呼びかけ、出された意見や情報をサービスに活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	年に一回介護相談員の訪問を受けいれている。また運営推進会議の際、地域包括支援センターの職員に参加して頂いている。	市の担当窓口へ行き運営上の情報交換などの連絡を取り合っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、協力関係ができていいる。介護相談員の受け入れも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会で身体拘束について定期的に学んでいる。その際身体拘束は今の現状では必要でないことを再度確認し合い意見交換を行っている。	言葉遣いも含め、利用者の心身を拘束しないケアについて、ミーティングで意見交換をしている。年1回、身体拘束をしないケアの理解と実践について、勉強会を行っている。日中、玄関の施錠をせず、全職員が連携プレーで利用者の自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の中で定期的に虐待について学んでいる。そして職員一人一人が虐待のないケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が入所時に関係者を個々の必要性を話し合っている。しかし、職員は理解がまだ不十分であるように思える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に重要事項説明書を基に事業所で出来る事出来ない事を具体的に説明し同意を得るようにし、ご家族の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い理解・納得をしてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常日頃から利用者が意見要望を伝えやすい雰囲気作りに努め、年一回家族会の開催やアンケートを実施すると共に意見箱の設置により要望を聞き、スタッフ同士話し合い反映させている。	家族会や面会時に家族に声かけを行い、日頃思っておられることなどを気軽に出示してもらえよう努めている。また、意見箱の設置やアンケートも行い、要望や意見の収集に取り組んでいる。出された意見や要望については、話し合いを行い、今後の運営に活かすように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月一回のミーティングに限らず、日頃から各職員の意見や要望を聞き、より良いサービスに向けての提案を取り入れて反映出来るようにする。</p>	<p>代表者や管理者は、日頃からミーティングなどを通じてコミュニケーションを図るように心がけている。また、年1回の振り返りや要望書を基に、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>実績などにより給与等の査定があったり、資格取得者に手当を給付したりと就業規則などの見直し改善がなされている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月のミーティングの際、職員の勉強会を開催し、お互いに意識レベルの向上を図っている。また外部で行われる研修会や参加も行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入し、研修会や交流会に参加している。また地域地域包括支援センター主催で、近隣の他施設との勉強会にも参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族は勿論のこと、本人にも出来るだけ入居前に施設見学に来て貰えるよう案内し、どのような環境であるかを知って貰い、不安を少しでも軽減できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、ご家族の思いを引き出せるよう働きかけ、事業所としての対応を話し合い、お互いすり合わせ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族がまず何を必要としているかをしっかり把握し、それにそった支援を行っている。また希望により他のサービス利用も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、買い物、食事などを共に行い、レクレーションやお茶の時間を通し楽しみを共有して家庭的な雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節ごとのイベントや行事を一緒に行い、コミュニケーションを計れる様交流の場を築いている。参加できない家族の方には二ヶ月に一度の新聞に職員の顔写真をのせ日常生活を含め報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人などの面会がある場合は以前と変わらず、気軽に話が出来るように居室に案内するなど環境作りに努めている。また本人が意思疎通が困難な場合はスタッフがコミュニケーションの手伝いを行っている。	何気ない会話や仕草から、馴染みの関係を把握し、関係が途切れないよう、面会や電話等で丁寧に対応している。墓参りや行きつけの美容院に家族と一緒に رفتり、知人の訪問等があり馴染みの関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性別や性格、相性、他利用者との関わり合いを考慮して座席の位置や日常生活、レク等の大まかな組み合わせ、グループ分けを行っている。また、会話の中で誤解が生じそうな時は間に入り、会話を助ける支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への転出後も面会するなどして関係性を維持できる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常時本人の思いを言葉、表情、行動から読み取り、思いに対して個別に可能な限り対応出来るように努めている。	日々のかかわりの中で、行動や会話などから、意向や思いを把握するように努めている。意思疎通が困難な場合は、家族から情報を得るなどして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族、他からの情報提供に加え、日々の生活の中でもこれまでの生活歴を話題に会話したりと把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りにて前日の入居者の現状を確認し、スタッフ全員で把握に努めている。また本人のペース・能力にあわせ支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングの他に状態変化の際にも随時行い、本人、家族、スタッフにおいて話し合い、介護計画を作成している。	利用者の健康状態を把握し、職員全員で意見交換を行い、介護計画を作成している。入所1ヶ月でモニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しをしている。変化が見られた場合は現状に合わせて介護計画の変更をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・ケア記録・身体状況記録に毎日の状況、ケアの実践・気づきを記入し、職員が勤務前に必ず目を通すようにしている。また、その他にも共有事項を申し送りノートに記入し、情報共有に努め、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望にフットケア、訪問マッサージの受け入れを行っている。また必要に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の方々や包括支援センター職員の参加あり、周辺情報等の情報交換を行い、地域資源を利用し、利用者の支援に役立てている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望に応じて対応し、適切な医療を受けられるように努めている	入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。ホームの協力医療機関のほか、皮膚科や眼科の通院支援も行っている。複数の関係医療機関と密に適切な医療を受けられるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>准看護師がおり利用者の健康管理・医療面での把握を行っている。又協力医療機関に24時間対応の電話相談が出来る体制が整っている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>定期的に面会を行い、利用者の状況を把握し、医療機関との情報交換に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人の意思を尊重し、ホームとして出来ること、出来ないことを随時説明を行い、お互いの意思確認、同意を得ながら取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期における介護方針を入居の際に説明し、同意をもらっている。状態の変化があった場合、本人や家族に説明を行い、職員も状態を共有して医療との連携をはかり、支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>安全対策マニュアルを作成し見直しを行っているほか、年1回救命救急の講習を行っている。また折りにふれケースカンファレンスを行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防や地域の消防団員に参加、協力してもらい避難訓練を実施しており、災害時の避難方法や経路を確認している。備品や設備の点検は定期的に行っている。	消防署の指導や地域住民の協力を得て、年2回、非常災害に対する避難や救出の訓練を行っている。また、町内防災訓練に参加し、地域との協力体制を築いている。災害用の水や食料の備蓄がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した上でその人らしく生活できるよう声掛けしている。また、常に自己決定できるよう本人の思いをくみ取れるよう心がけている。	人格を尊重し、年長者として尊敬の気持ちを持って、言葉遣いや声かけを行っている。入室時のノックやトイレ誘導時の声かけや入浴時の同性介助など、本人の思いをくみ取って誇りやプライバシーに配慮したさりげないケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ある程度の一日の流れを決めてはいるが、本人の希望や体調に合わせて自己決定ができる支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者のペースを大切にし、やりたい事や見極めた支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	鏡の前で話をしながらヘアブラシを勧めてみたり、衣服と一緒に選んだり、外出時にはお化粧を勧めたり、本人の希望に合わせた支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃より利用者の好みを聞いたり季節に合わせた献立を作成し、個別に嗜好品を取り入れている。利用者の能力に合った調理作業や食事の準備や下膳などを行っている	利用者の力量に合わせて調理や準備を職員と一緒にしている。嗜好調査をして好みの料理を把握している。季節に合わせた献立や行事食等、食べる楽しみを作る配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、お茶時間後は必ず食事量、水分量を記録している。また、水分量が少ない方や制限のある方に対してはいつでも手軽に飲めるよう白湯をペットボトルに入れ用意している。食事が摂れない時には食べたい物やカロリーの高い物を提供したりして対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の能力に応じて口腔ケアを行い磨き残しをスタッフが義歯ブラシや歯間ブラシなどで仕上げ介助行っている。また必要時には歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し自然排泄を促せるように声かけ案内している（本人の状態に合わせてポータブルトイレやオムツ使用を行っている）	一人ひとりの排泄パターンを把握して、しぐさや時間を見計らってトイレ誘導している。昼間はトイレでの排泄を、夜は転倒予防や本人の状況に合わせて、ポータブルトイレやオムツ等で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや果物の提供を心がけ、個々の排便パターンに応じてトイレ案内を行い便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的な入浴日が設定されているが、いつでも希望時に入浴できる状況にある。	入浴回数は、ある程度決められているが、毎日でも入浴可能で、利用者の希望を確認し気持ちよい入浴を支援している。入浴を拒む利用者には、声かけのタイミングを計ったり、入浴日を変えたりしながら、清潔保持に心がけ支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望やその時の状況により昼寝などの声かけを行っている。また日中は散歩や軽体操などの活動で生活のリズムを整え安眠の繋げられるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員間での服薬情報の共有が図れており、服薬時は飲み込むまでの見守りを行っている。また内容の変更時により状態観察必要な場合は申し送り事項としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い等、ここの能力を發揮できる場面作りを行っている。また、利用者の楽しみ、気分転換を見つけ出して、それに応じた支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や買物を本人の能力、希望にそって行っている。又個別に個々の協力を得ながら出かけるように支援している。	利用者の体調や天気を考慮して、近隣の散歩や買い物に出かけている。車椅子での散歩も行っている。利用者の希望する場所やいろいろな行事への参加等、事業所のマイクロバスで戸外に出かける支援をしている。家族の協力を得て墓参りや外食等にも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望により本人による金銭所持を行っている。スタッフ同行による買い物にてお金を使うことを支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望により、家族の了承を得て電話をかけたり、手紙のやり取りをする事を支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度・湿度チェックを随時行い、適切な共用空間作りに努めている。また季節感が感じられるような飾りつけやレクリエーションを行っている。</p>	<p>玄関やホールは、職員と利用者が一緒に手作りした作品が展示され、季節を感じさせる花が飾ってある。ホールは、広く開放的で、バリアフリーの畳の間があり、ゆっくりと居心地よく過ごせる空間である。室内は清掃され、利用者が快適に過ごせる環境作りになっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>所々に椅子やソファを設置しセミパブリックステーションを作っている。またホール内に畳の部屋をもうけ誰でも利用出来るようになっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の馴染みのある品や家具を置くなど居室を自由に使って貰えるよう、ご家族に働きかけている。</p>	<p>居室は、ベットとタンスが備え付けられており、ゆったりとして広い。家族写真や冷蔵庫・テレビ等、馴染みのものが置いてある。ハンガーラックには、何時でも外出ができるように、衣服や帽子がかけられ、安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者一人ひとりが安全で自由に行動出来るような環境整備を行っている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
		季節毎に	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない